

# 共に生きる

東日本大震災現地支援ニュース 特別号(No22)

2014年3月11日 大会執事活動委員会

## 三周年を迎えた被災地から

大会議長 吉田隆

未曾有の被害をもたらした震災から三年が経ちました。

この東北の地に、どれだけ多くの方々が国内外から訪れてくださったことか、また遠くから近くからどれだけ多くの御支援をいただいたことか、そのことによって被災者の方々がどれほど大きな助けと慰めを与えられたことか計りしれません。深い感謝を主に捧げるのみです。

三年を経て、震災の“風化”が始まっていることは事実であり避け難いことです。それでもメディアを始め、多くの方々が“忘れない”という姿勢を示し続けていくくださることも感謝なことです。なかでもキリスト教会・諸団体が、依然として地道な支援活動を継続していることに、私は大きな感謝と喜びを感じます。

日本キリスト改革派教会におきましても、大会執事活動委員会による現地支援ニュースを通して報じられているとおり、数えきれない支援活動が諸教会・信徒の皆様の祈りと捧げ物とボランティア活動などを通して為されてきましたこと、そして現在も続けられていますことに、大会を代表して心からの感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

教会堂の復旧については、この四月に仙台教会の礼拝堂の修改築と教育棟の新築工事が完成する運びとなった一方、これまでボランティア活動に集中していたために後回しになっていた東仙台教会の会堂修改築工事の協議がようやく始められました。また、東松島・山元町・陸前高田での支援活動が豊かに祝され、被災者の方々との実に深い信頼関係に基づいた働きへと変わって来ていることは、皆様御存知のとおりです。これらの働きは、これからの改革派教会の教会形成の在り方に必ずや大きな影響を与えて行くことでしょう。

さて、しかし、三年を迎えた津波被災者の現実、すでに新たな生活の場を確保して“次に”向かっている方々と、一向に進まない復興の中で仮設生活を依然として余儀なくされて孤立する方々、そして家族や家や仕事を失った喪失感の中で“あの日”に取り残されたままの人々との、年を追うごとに広がるギャップが顕著です。

さらに、フクシマの現実、いよいよその混迷の度合いを深めています。原発を巡る政財界を始めとする様々な力が働く中で、被災者の方々、とりわけ子供たちの“いのち”が翻弄されています。改革派教会はこの面における支援活動に「東北ヘルプ」を通して関わっていますが、福島県周辺にあるキリスト教会も少なく無く、今後とも決して他人事にはならない問題であることを肝に銘じたいと思います。

このような経験をして改めて気づかされた多くのことがありました。自然の脅威もさることながら、このような災害とその後に現れる様々な人間の心です。キリストの教会は、その中で呻くしかできない声にならない人々の苦しみを抱え込みつつ、なおキリストの大きい慰めと希望に生きる場であることを思うのです（Ⅱコリント1：5）。

あの日以前に、この国も教会も戻ることはできません。全国の諸教会が主イエスの十字架と復活を証する場として、この国に生きる人々に尽きることのない希望を与えることができますように、心から祈りたいと思います。



## 仙台教会 会堂・教育棟（復興センター）修改築工事報告

仙台教会 建築会計担当 佐々木和雄

主の御名を心から讚美申し上げます。

全国からのお祈りと支援とにより、私たちの教会は3・11から約3年目にして、神様の導きにより会堂の修復工事と、教育棟（復興センター）の建て替え工事に着手することが出来、今年4月にすべての工事が完了する予定となります。

昨年の6月から会堂の修改築工事が始まりましたが、工事材料の高騰、人手不足が重なり、当初見込み予算を大幅に上回り、当初計画の4月から2ヶ月遅れの着手となりました。また予算との関係から構造・間取り・材料や、業者様の選定等で、設計事務所様の大変なご苦労の末、会堂につきましては昨年の11月末に献堂式を行うことが出来ました。そして、教育棟（復興センター）新築につきましては12月末から着工し、今年1月24日に上棟式が執り行われました。しかし、2月の大雪や東京オリンピックのしわ寄せ等から工事が遅れ気味になりつつあります。また、全国の建設業者様は4月からの消費税アップもあり、どこも3月末まで手一杯の中、私たちの教会を請け負っている業者様はその工事のやりくりの中で4月イースターを目指し、毎日残業につく残業で頑張ってくださいています。

今の予定では、4月20日イースターに献堂式を予定していますが、是非順調に工事が進められますようにお祈りしていただければ幸いです。

この修改築工事にあたり、全国の諸教会・伝道所様、ミッション協力協議会様、また多くの方々から尊い献金を捧げていただき心より感謝申し上げます。まだ予定の募金額には達してませんが、神様の御心が私たちの思いと重なることをお祈りしています。

### \*のぞみセンター祈禱課題

のぞみセンタースタッフ 濱田唯

愛する兄弟姉妹の皆さま、

いつも東北における支援活動をお祈りに覚えて頂き本当にありがとうございます！メールやお手紙で「忘れてないよ。まだできることは協力したいと思ってるから。」という有り難いお言葉を頂戴する度に、日本国内外からの熱い後押しを感じ、スタッフも含め皆で励まされております。3月11日が近づくにつれ、地域の方お一人お一人の感情の浮き沈み、もがき、苦しみ、それと同時に「切に希望を探し求める心」をより見かけるようになりました。「共に生きる」の原稿の中で少し触れさせて頂いた、お家に目隠しをされてひきこもり状態になっておられた方が、昨日干し芋を持って少し照れ臭そうに初めてイベントへの申込みをしに来て下さいました。婚約者を津波で流され今もお独りでおられる女性は、英会話中一緒に読んだ聖書箇所「涙され、放課後毎日遊びに来てくれている子たちは鼻歌で「主我を愛す」を歌い、「イエスキリストに生きていますか？」と質問してくれます。東京、千葉、新潟、色々な大学や高校からもボランティアで青年たちが来てくれて、ノンクリスチャンの子たちも涙を流しながら祈りに心を合わせてくれています。まだまだ心の復興には年数がかかり継続的な支援が必要ですが、復興地には主の愛が湧き満ちています。がんばっぺ！と歯をくいしばらなくても、しゃんねえべな...と無理に自分を説得させ人生を諦めなくても、主が生きて働いておられる。最後まで見捨てないお方が名を呼んでくださる。そこに希望があり、感謝が溢れます。改革派教会の皆さまが一斉に立ち上がり、主の御声に信頼して多くの尊い捧げものをして下さっているが故に、のぞみセンターの働きは支えられ、主の光を放つ場所として立ち続けていられます。この場をおかりして、心より感謝を申し上げます。これからもぜひ皆さまと、山元町で主がなされる御業を体験し、栄光なる主に讚美を捧げる歩みを共にさせて頂ければ嬉しく思います。

\*お祈りください\*

- 放課後遊びに来てくれている子どもたちがキリストの愛を知らながら心身共に健やかに成長していけるように。
- 地域の方々のお家を訪問して傾聴ケアをする際に、主の温もりと平安が届けられるように。
- 心のケアを目的に行うセンターでのイベントを通して愛のあるコミュニティーが再建されるように。
- 変わり続ける地域のニーズにこれからも応えていくために、少なくとも後2名フルタイムスタッフが与えられるように。

尽きぬ感謝と祈りをこめて、



### \*名古屋岩の上教会東日本大震災ディアコニア支援室の祈祷課題

- ① 第12回被災地支援ディアコニア活動のために 日程：3月20日～22日 奉仕者：12名
  - ・相馬市・南相馬市の二つの仮設住宅、及び亙理旧館・坂元中跡でのコンサート・カフェ・ミネラルウォーター配布・包丁研ぎ・健康相談活動のために。
  - ・愛知県立芸術大学歌科学学生によるコンサート、ショートメッセージが被災者の皆さんの心に楽しさ、癒し等を届けられますように。
  - ・初めて行うキリスト者医師による健康相談のために。
  - ・フクシマの中でも、支援の手が行き届きにくい相双地区（相馬・双葉）で支援を継続しておられる日本同盟キリスト教団後藤牧師他のために。
  - ・のぞみセンターで忠実かつ懸命に奉仕しておられるスタッフ方、特に定住スタッフの浜田唯姉のために。
- ② 第13回被災地ディアコニア活動のために 日程：未定（ゴールデンウィーク中の可能性あり）
  - ・フクシマの現実をひとりでも多くのキリスト者に見て頂くことは、今後の長期に渡る支援のために大切だと思います。参加者を広く募集いたします。
  - ・一個教会では、到底担えきれない過酷な現実の中を生きておられるフクシマの被災者を後方支援する教会・伝道所あるいは大会的なネットワークが起こされるように。

### \*陸前高田支援活動の経過と今後の課題

#### I. これまでの経過

チーム陸前高田・代表：李 根培

私たちチーム陸前高田の支援活動の第1回目の訪問は2011年8月19日でした。この時は2つの仮設の訪問を目的に陸前高田を訪れたのですが、結果的には3つの仮設訪問となりました。その後、仮設訪問は合計6つとなり、キリスト教会を含め、個人への訪問は4か所となり、現在、訪問先は合計10ヶ所を定期的に訪問するようになりました。

今年、2014年1月27日現在で、41回目の訪問となりました。これまでの活動は物資訪問とイベント訪問の繰り返しでした。物資訪問では米、味噌、衣類、電気カーペットなど、その時期に最も必要とされる物資を、200世帯分をお届けして参りました。2011年10月には北国の暖房のために、電気カーペット2畳もの、3畳ものをお届けしたことが、大変喜ばれ、仮設の方々との関係強化の一因ともなりました。イベント訪問では、韓国からの装飾専門店の経営者がビーズでネックレス作りの講習会を開催してくださいました。その他にも、たこ焼きを実演したり、韓国料理教室を開いたり、石鹸デコパージュ、---等を仮設の方々と共に作り、楽しい時を過ごしました。しかし、課題もありました。集まる方々はほとんど女性でした。男性が集まるためには、どうすればよいか、私達チームの課題でした。

## II. 「CRC メディアミニストリ主催の新垣勉コンサート」

2014年3月8日(土)にCRCメディアミニストリーが新垣勉・希望のことばコンサートを仙台市若林区で開催してくださいました。2011年、2012年、そして、今年で3回目となります。私たちチーム陸前高田は、このコンサートに陸前高田の仮設に住む方々をご招待したいと、願っておりましたが、3年目にして、やっと神様は私たちの願いを適えてくださいました。

「仙台の秋保温泉に一泊し、翌日このコンサートに招待」との計画がまとまりました。

今年・2014年1月、早々に陸前高田を訪問し、挨拶回りをしながら、この計画を説明、募集した結果、男性13名、女性24名、合計37名の参加希望者が与えられました。このような状況の中で、2月24日(月)・第42回目の訪問をし、3つの仮設で「カフェ」を開きました。集まった方々は、ほとんどの人がこのコンサートへの参加者で、勿論、男性も集まりました。

2週間先の「温泉一泊、翌日コンサート招待」に心弾ませ、豊かな話し合いとなりました。今回の企画を通して、仮設の方々と私たちとの交わりを主が豊かに用いて下さいます様に祈ります。

## III. 今後の計画、課題、祈り

- ・今回のコンサートの企画に一泊では無理な方々もありました。参加できなかった仮設の人々を対象に新たな企画を立てる必要を私たちは感じました。カフェを開き、仮設の方々と共に、話し合いの中で、新たな企画を立てたいと思います。
- ・又、仮設ばかりでなく、保育園にも最近では訪問し始めました。童謡など幼児のための音楽教室を開いてボランティア活動をされておられるグループとも関係が出来、4月にはこの音楽ボランティアと共に、保育園訪問も計画しております。
- ・陸前高田には陸前高田キリスト教会があり、又隣接する大船渡にもキリスト教会があります。これらの教会と私たちは協力出来ないか、現地のキリスト教会の事情について調査することも考えております。
- ・大震災から、3年目を迎えました。仮設住宅の内部にも変化が起き始めました。仮設から、高台移転、又は新たな住居を確保出来た人々と残された人々との間で3年間続いた人間関係が崩れ始めている。この状況を踏まえて、私たちの行動をどのようにすべきか注意深く対応する必要があります。
- ・今後、多くのボランティア団体が手を引く中、訪問回数を増やし、一日でも長く訪問を継続して行きたく願っております。又、現地に拠点となるセンターが与えられるように祈り求めています。



## \* 東仙台教会ボランティアセンター祈禱課題

明日で震災から3年を迎える3/10(月)は東名・野蒜の子どもたちが通う中学校の振替休日でした。イベントの一つであった食べ放題の店で子どもたちは大はしゃぎでした。全くと言っていい程、表には見せませんが、家族や親友を失った痛みが、今も心の奥底に存在しているのか、無理やり押しやっているのではないのでしょうか。出会った当初は小学5年生だったこの子たちも、まもなく思春期を迎えます。子どもたちが健やかに成長するよう、お祈りください。

響仮設住宅から在宅へ引っ越す方々の、新しい土地での生活のために、また「取り残された」という思いにある、未だ仮設住宅で暮らす方々のためにお祈りください。「風の強い日に散歩中、荒れた川を見てパニックになった。」と話している女性がいらっしゃいました。一度受けた心のダメージは相当なものだと改めて知らされた思いでした。震災から3年という節目を迎えるお一人お一人のためにお祈りください。そして私たちスタッフが心身共に支えられ、微力ながらもより良い活動・関わりができるように覚えてくだされば、幸いです。

日頃から多くの祈りと励まし、ご支援に感謝して。